加古川駅前新春オルガンジャズ

GROOVY NIGHT

小野みどりオルガントリオ

ヴィンテージ・ハモンドB-3 その空気感に富む明朗な音色によるグルービーなジャズナイト

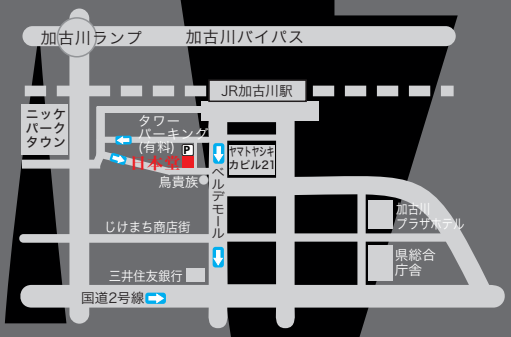
in Kakogawa

2011/1/29 SAT

OPEN 17:00
START 18:00

ぎゃらりー&サロン 日本堂
加古川市加古川町篠原1-70 TEL079-423-1053

前売 ¥3,000(当日¥3,500-)
高校生以下¥1,500（当日¥2,000)



お問い合せ
TOBAN JAZZ CLUB TEL079-422-8739
http://t-jazz.com/ info@t-jazz.com

チケットはwebか下記販売所で　web　http://t-jazz.com/j/
加古川駅前　紅茶と英国菓子「チャッツワース」(加古川町)　東加古川　喫茶「BECAUSE」(平岡町)
東加古川　music&cafe「キャロル」(別府町)　高砂　パブ＆レストラン「サン・はーばー」(高砂市高砂町)

主催/TOBAN JAZZ CLUB　後援/YS Corporation・BAN-BANテレビ株式会社・おんがくのまちかこがわ実行委員会・寺家町商店街振興組合(じけまち商店街)・加古川駅前通商店街振興組合(ベルデモール)

ハモンドB-3の魅力

こんなに長く愛され続けた電気楽器が他にあっただろうか？…電子オルガンの代名詞として誰もが知っている「エレクトーン」でも、たかだか50年程の歴史を持つに過ぎない。ハモンドオルガンはさらに時代をさかのぼった1930年代中頃に発明された。開発当時から現代にいたるまで、多くのミュージシャン達に愛され、今でも当時のモデルを修理・改造しながら演奏に使用されている。まさに20世紀を代表するヴィンテージ楽器なのである。エレクトーンが電子式の発振回路を組み合わせて作ってあるのに対して、ハモンドはトーン・ホイールと呼ばれる金属円盤とコイルによって基本となる音を作り出す。それに倍音をブレンドして、ハモンド独特の明るく空気感に富む音が生み出される。技術的には超アナログな回路であり、「電子オルガン」というよりはむしろ「電気オルガン」と呼んだ方がよいのだろう。完成度の高かったB-3はその中でも名器と言われ、B-3といえばそれ自身が一つの楽器の名称にもなっている。

もう少しだけ歴史の話をしておこう…ハモンドは当初、パイプオルガンの代用品としてキリスト教の教会に納められた。本物のパイプオルガンはとても高価なものだし、それを設置する建築物にも相応のスペースと構造を要求した。当然の成り行きとして、このオルガンはいわゆる黒人（アフロ・アメリカン）がたくさん居住する地域の教会に納められる事が多かった。そこで演奏されるゴスペルや、その周辺から派生した様々なブラック・オリエンティッドな音楽には、かならずハモンドの音が付いてまわることになる。それどころか、ロック、ジャズにとどまらずポピュラー音楽全般に無くてはならぬ楽器となっていった。その例をここに挙げ始めると、おそらく紙面を全部戴かなくてはならなくなるが、モダンジャズ史上最もオルガンの可能性を世に知らしめたジミー・スミスの名だけはやはり特記しておくべきだろう。今回の小野みどりトリオの演奏スタイルも、ルーツを辿っていけばやはりジミー・スミスに行き着くだろう。

（解説：TJCしろくま）

小野みどり(B-3)

11歳よりハモンド・オルガンを始める。同志社大学在学中はビックバンド「ザ・サードハード・オーケストラ」に参加。1997年11月には "San Francisco Jazz Festival" の「オルガンサミット」に招待され、ジミー・マクグリフ、ブッカー・T・ジョーンズ等と共演した。"Most Exciting Japanese Organist" と称賛され本場のオルガンファン達を熱狂させた。

1998年12月に YS organ-is Records より "Green's Blues" を、1999年10月には、橋本有津子とのカップリング・ライブCD "JAZZ ORGAN TRIBUTE" をリリース。2000年には、ブラザー・ジャック・マクダフ、ドクター・ロニー・スミスらオルガン界の巨匠達と共演する。その後アメリカの演奏ツアー等を重ね、日本人離れしたソウルフルでブルージーな演奏を披露した。

能勢英史(Gt)

1968年、兵庫県生まれ。音楽専門学校を卒業後、19歳の頃よりジャズクラブで演奏するようになり、国内外多数のプレイヤーとのセッションを経験。イベントやジャズストリート出演、レコーディング…と活動の幅を広げ、また専門学校で講師も勤める。アコースティックな歌伴奏から、エレクトリックなオルガントリオ、またビッグバンドまで様々な編成において、そのプレイが注目を浴びる。

宮下博行(pf)氏とのデュオアルバム「conversation」では、ピアノとギターのみで叙情的なインタープレイを、また魚谷のぶまさトリオのアルバム「とびだせJACK 1,2」では、オーソドックスなスイングスタイルを披露、その柔軟性を示す。さらに近年、ジョージ・ヴァン・エプスに魅せられて7弦ギターに転向。自己のスタイルをさらに追究している。

東　敏之(Ds)

1963年、大阪府生まれ。中学生の頃よりジャズを聴きはじめ、吹奏楽部にてテナー・サックスを始める。高校生よりドラムスに転向。22歳でプロ入り、京阪神の様々なグループで演奏を行う。ピアニストの田村翼氏に認められ、六本木の老舗ライブハウス「アフターシックス」で同氏とレギュラー出演。1991年ヴァイブ奏者の大井貴司氏のバンド「スーパーバイブレーション」に抜擢され、全国ツアーやCD制作、テレビやラジオ出演を経験する。3年間在籍の後、1994年に大阪に戻り、再び京阪神での活動を再開する。同年末にピアニストの近秀樹と意気投合、「近秀樹トリオ」を結成。現在は自己のカルテットの他、神田芳郎クインテット、田中洋一〜木畑晴哉クインテットに在籍。演奏活動の他、大阪音楽大学・音楽専攻科の講師も務める。2004年度第41回なにわ芸術祭第12回中山正治ジャズ大賞、新進音楽家新人賞、大阪府知事賞、大阪市長賞を受賞。

ゲストボーカル 小柳　淳子(Vo)

1969年、大阪府生まれ。3歳の頃より天性の音楽的才能を発揮していたが、高校時代いきなりヘヴィメタバンドを結成、ロックの虜となる。ロックがきっかけで英語の勉強に没頭し外語系短大へ進学するが、ロックスターへの道もあきらめきれず、卒業後は英語講師のキャリアを捨て、再びポップスバンドに参加。その頃から徐々にJazzに興味を持つようになり、ジャズ・ヴォーカリストへの道を歩み始める。ジャズボーカルにとどまらず、その後ロックバンド「life.」を結成し、マルチな音楽的才能を発揮している。共演してみたいミュージシャンはスティービー・ワンダー・・・夢は大きい。

TOBAN JAZZ CLUB
会員募集中！

地域の音楽文化発展に寄与します…なんて小難しいことは申しません。私たちの住むこの東播磨地域を中心に、ジャズの愛好者が集まって情報交換をしたり、イベントを手作りしたりして、大いに楽しもうじゃありませんか！…というのがこの会の趣旨なんです。2009年9月に誕生したばかりのフレッシュな会で、今回のライブは自主公演としては3回目となります。また今後、様々な活動を企画してまいりますので、ジャズを演奏される方、単に聴くのが好きな方いずれの方も、興味を持たれた方は事務局まで気軽にお問い合わせください。

official web site　http://t-jazz.com/
TOBAN JAZZ CLUB事務局
TEL 079-422-8739
E-Mail　info@t-jaza.com

チームウェアからステッカー
店舗制服エプロンまで
1枚からオリジナル!

加古川唯一のオリジナルプリント専門店
PAPAHOUSE
有限会社パパハウスコーポレーション
〒675-0037兵庫県加古川市加古川町本町292-5
TEL079-421-4343(月〜金9:00〜18:00)
FAX079-421-3998(24時間受付)
E-mail:info@papahouse.co.jp

イベントフライヤーとかぁ
ポスターとかチケットとかぁ
商品開発とかぁジャケデザインとかぁ
名刺とかぁ、なんでもするしぃ〜
TURUYA ANALYZE&BUILD 03
CALL NOW 090-3716-8450 TEL079-421-1699 FAX079-421-1699 info@webturuya.com
戦略広告と編集デザイン 鶴屋第３企画舎
ちゃんとマーケティングするデザイン屋でし！